

## 研究結果報告書

植民地期の韓国における水産加工業者・竹中新太郎の企業家活動に関する研究

所属： 済州大学校在日済州人センター  
役職： 特別研究員  
氏名： 高 広明

この研究は、第2次世界大戦以前の日本だけでなく、植民地期の朝鮮にまで軍需缶詰工場(竹中缶詰製造所)を展開した竹中新太郎(1891-1957)の企業家活動について明らかにするものである。文献調査、現地調査などを行ってきた本研究の結果を要約すると、次のようである。

第一に、竹中新次郎(祖父)と長男・仙太郎(父)は1904年(明治37)に京都祇園に青果商「八百伊」を開業した。そして、事業は仙太郎の長男・竹中新太郎と、次男・清次郎(1894-1968)へと継承されていったのである。1922年(大正11)に京都市南郊の墨染軍需演習管理工場を設立してから1929年(昭和4)に輜重兵營の西側に移転した。

第二に、進出動機(背景)については、朝鮮総督府が1921年(大正10)より4年間の劣等牝牛去勢整理計画を実施したため、昭和期になると処分せざるえない肉牛が減少してきた。畜牛による計画的な食料総産と販路の安定を目指した朝鮮総督府は、繁殖能力の失った老廃牛の処理とその活用を計画した。そこで、すでに京都の祇園と伏見での実績があり、軍部とも密接であった竹中缶詰製造所は、当時、日本の植民地であった朝鮮で最初の分工場である済州工場をはじめ、いくつかの工場を設立した。済州島は日本本土、沖縄、朝鮮半島と満州とのほぼ中間に位置するため、竹中分工場で生産される缶詰は朝鮮総督府との人脈から軍用食料品として生産が続けられた。

第三に、竹中新太郎は1923年(大正12)から1928年(昭和3)に掛けて済州島北西岸の翁浦里に分工場を設置した。伏見工場と同様に、済州島工場でもグリーンピース缶詰の製造が行なわれ、やがて牛肉缶詰に代わる主力製品になり、アワビやサザエ、サバ、イワシなどの魚介類(fish and seafood)缶詰も製造された。彼は済州島最大・最新施設の工場を作るため、北九州から運び込んだ燃料用の石炭・製缶用の空缶、原料の輸送の利便性を求めて敷地から延びるトラック用の路線などを利用して潜水(裸潜)漁業と関連した家内性工業から脱皮した。

第四に、1926年の竹中分工場では、済州島にあった12か所缶詰工場において最大の資本金(40,000円)、年間生産高(21,000箱、42,000円)や労働者数(内地人の男性8人、朝鮮人の男性6人、朝鮮人の女性30人)を誇り、おもに翁浦里の女性が従事していた。1935年(昭和10)の移出は8,000箱、75,000円を超えるため、その多くは欧米に輸出されていた。ただし、1934年(昭和9)における同種の年間製造量は、同年の牛肉缶詰の6分1、グリーンピース缶詰の3分1程度であった。特に、羅州工場は羅州邑月見町にあり、主要品目は肉蔬菜類缶詰、100-199人の職工を配する比較的大規模な工場であった。

第五に、竹中新太郎は1937年(昭和12)に羅州工場(精肉缶詰工場)、1938年(昭和13)に鬱陵島工場(サザエ・アワビ缶詰工場)、1943年(昭和18)に馬山工場(農産物缶詰工場)など朝鮮への事業を展開した。特に、彼は1943年(昭和18)に東草工場を建設し、牛肉缶詰(一日に牛50頭を加工)を軍需物資に納品した。さらに、1938年(昭和13)頃に京成事務所(ソウル南大門)、1940年(昭和15)頃に釜山出張所、1942年(昭和17)に北朝鮮の清津工場(イワシ油脂工場)などの朝鮮各地に工場・事務所を設立した。

第六に、竹中新太郎は済州島での事業を拡大しながら翁浦里の東方にある翰林東小学校の校舎改築や、陸軍への戦闘機の寄付なども行われた。他にも、竹中缶詰製造所は、舊右面事務所、舊右面漁業組合、済州島翰林漁港築造期成会や舊右面電燈組合設立準備委員会などの設立に関わっていたようである。これら以外にも、竹

中家が設置した朝鮮除虫菊株式会社もそのひとつで、おもに軍馬の除虫を目的とした除虫菊が済州島でも栽培された。

第七に、清次郎(新太郎の弟)の長男(竹中清治)は、京都の伏見工場と隣接した場所で料亭旅館((株)清和荘)を営んでいる。また、三男(竹中史朗)は 1957 年に京都工場の閉鎖直後に京都府宮津市でイワシ・カニ缶詰工場(竹中缶詰(株))を開設し、家業を継承している。

従って、竹中新太郎は本社(京都事務所)となる京都・伏見工場と、済州島を中心とする大規模の事業展開を経て 1930 年代以降に全羅南道、慶尚南道、東海岸にまで北上して日本の軍需産業と結びつきながら企業家活動を遂行してきたといえる。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表(題名・発表者名・会議名・日時・場所等) 予定  
題名: 植民地期の韓国済州島における竹中新太郎の企業家活動  
発表者名: 高 廣 明  
会議名: 韓国日本近代学会  
日時: 2015 年 5 月  
場所: 社団法人 韓国日本近代学会

論文(題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等) 予定  
題名: 植民地期の朝鮮における竹中缶詰製造所の事業展開  
発表者名: 高 廣 明  
論文掲載誌: 済州島研究(社団法人 済州学会)  
掲載時期: 2015 年 8 月  
ISSN: 1229 - 7569

書籍(題名・著者名・出版社・発行時期等)  
名:  
著者名:  
出版社:  
発行時期: